



年表 Timeline

年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1868（明治 1） 年		明治維新。 日本から海外への移民がはじまる。
1882（明治 15） 年	3 月 25 日、浦添小学校創立（浦添間切番所内浦添小学校）。	
1885（明治 18） 年		4 月、ハワイへの第 1 回官約移民。
1888（明治 21） 年	1 月、浦添小学校、浦添尋常小学校と改称する。	
1894（明治 27） 年		8 月、日清戦争起こる。
1895（明治 28） 年	4 月、浦添尋常小学校仲西分校創設。	4 月、日清講和条約調印（遼東半島・台湾の割譲）。 5 月、台湾総督府を設置。
1899（明治 32） 年		12 月、沖縄からハワイ契約移民が那覇港を出航。
1902（明治 35） 年	中頭尋常高等小学校を廃し、浦添尋常小学校が浦添尋常高等小学校になる。 仲西尋常小学校創立（浦添尋常小学校から独立）。	
1904（明治 37） 年		2 月、日露戦争起こる。
	6 月、浦添から最初の海外移民 4 人がハワイへ渡航。	沖縄からフィリピンへベンゲット道路工事のため渡航。
1905（明治 38） 年		9 月、日露講和条約調印。
	12 月、6 人がニューカレドニアへ渡航。	12 月、満州に関する日清条約調印。
1906（明治 39） 年	10 月に 4 人が、12 月に 2 人がメキシコへ渡航。 浦添からペルーへ初渡航。 海外移民総数浦添 193 人（沖縄県 2036 人）	10 月、沖縄から最初のペルー契約移民横浜港を出航。 11 月、南満州鉄道株式会社設立。
1907（明治 40） 年	カナダへ 2 人が初渡航。	沖縄から最初のカナダ移民が渡航。
1908（明治 41） 年	1 月、浦添間切から浦添村になる。 フィリピンへ 2 人が初渡航。	日本からブラジルへ最初の移民が笠戸丸で渡航（沖縄出身者 325 人を含む）。
1910（明治 43） 年		8 月、日本、韓国を併合。 9 月、朝鮮総督府設置。
1912（明治 45） 年		1 月、中華民国成立（中国）。



年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1913（大正 2）年		沖縄から最初のアルゼンチン移民が渡航。
1914（大正 3）年		7 月、第一次世界大戦起こる。 10 月、日本海軍、赤道以北のドイツ領南洋諸島（群島）を占領。
1915（大正 4）年	浦添村出身の海外在留者数は 394 人、送金総額は 9,190 円。	
1916（大正 5）年	字宮城のフィリピン移民女性 2 人、入墨（ハジチ）のため強制送還。	
1917（大正 6）年	4 月、仲西尋常小学校に高等科を併置。 浦添からブラジルへ初渡航。この年合計 81 人がブラジルへ渡った。	
1918（大正 7）年		11 月、第一次世界大戦終わる。
1919（大正 8）年	1 人が北米へ初渡航。	沖縄から最初のボリビア移民が渡航。
1920（大正 9）年		1 月、国際連盟成立。同盟及連合国ト独逸国トノ平和条約（ベルサイユ条約）公布。赤道以北の旧ドイツ領諸島の委任統治国を日本に決定。
1921（大正 10）年		サイパン島に南洋興発株式会社、資本金 300 万円で設立。
1922（大正 11）年		4 月、パラオのコロール島に南洋庁設置。サイパン移民が本格的にはじまる。
1923（大正 12）年		南洋興発株式会社サイパン工場、製糖事業の開始。
1924（大正 13）年		南洋興発株式会社、サイパン工場従業員の募集広告を新聞に掲載。
1928（昭和 3）年	浦添村出身者のダバオ在住 87 世帯。	
1929（昭和 4）年		製糸会社の待遇が悪く、沖縄出身女工の帰郷が相次ぐ。
1931（昭和 6）年	1 人がアルゼンチンへ初渡航。	9 月、満州事変。 労働力過剰で南洋庁が移民阻止を沖縄県に通知。
1932（昭和 7）年		3 月、満州国建国。
1933（昭和 8）年		3 月、日本、国際連盟を脱退。
1934（昭和 9）年		6 月、開洋会館（移民訓練所）が那覇市若狭町に落成。



年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1936 (昭和 11) 年		台中丸にて県外出稼ぎ女工 73 人が渡航。
1937 (昭和 12) 年		7 月、盧溝橋事件。
1939 (昭和 14) 年	県外出稼ぎ紡績女工総数 277 人中、浦添村出身者は 20 人(製糸女工 1 人、男 7 人を含む)。	9 月、第二次世界大戦起こる。 沖縄から最初の満州農業移民 23 人が出航。沖縄県、8ヶ町村 3 万戸、15 万人満州移住計画をうちだす。
1940 (昭和 15) 年	満州開拓青少年義勇軍募集で浦添 13 人を割り当てる。	
1941 (昭和 16) 年	4 月、国民学校令により、浦添尋常高等小学校は浦添国民学校、仲西尋常小学校は仲西国民学校と改称。	12 月、日本軍がハワイの真珠湾を攻撃。海外移民が中断する。フィリピンのミンダナオ島に米軍が上陸。
1942 (昭和 17) 年	11 月、青雲開拓団の先遣隊が沖縄を出発。	
1943 (昭和 18) 年	3 月、青雲開拓団第 1 陣が沖縄を出発。	沖縄から満州開拓青少年義勇軍への送出 550 人に達する。
1944 (昭和 19) 年	4 月、満州国東寧省報国農場隊 50 人が満州へ渡る(浦添の 3 人を含む)。 浦添から青雲開拓団に到着(1 月第 1 陣、2 月第 2 陣、6 月第 3 陣、12 月第 4 陣)。	昭和 19 年度第 14 次満州大陸集団開拓団 3 千戸について浦添以外 18 ヶ村で分村懇談会が実施される。
	8 月、仲西国民学校児童等、宮崎へ疎開。	6 月、サイパン島に米軍が上陸。 7 月、テニアン島に米軍が上陸。 老幼婦女子・学童 8 万人を日本本土へ、2 万人を台湾への集団疎開を決定。 8 月、対馬丸、米軍潜水艦の魚雷攻撃で沈没。
	9 月、浦添国民学校児童等、宮崎へ疎開。	9 月、フィリピンのダバオ空襲。パラオのペリリュー島に米軍が上陸。 10 月、那覇を中心に大空襲を受ける。 台湾空襲。
1945 (昭和 20) 年	4 月 26 日、米軍、前田高地を攻撃。	3 月、東京大空襲。 4 月、沖縄本島に米軍が上陸。 5 月、台北大空襲。 8 月、原爆を搭載した B29 がテニアン島より離陸、広島・長崎に投下。



年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1945 (昭和 20) 年	浦添村内の人口 4,112 人。	8 月、ポツダム宣言受諾。終戦。 9 月、第二次世界大戦終わる。 各地からの引き揚げ開始。
1946 (昭和 21) 年	2 月 6 日、各収容所より仲間キャンプへの移動許可が出る。 2 月 9 日、先遣隊が仲間キャンプの建設を開始。 3 月 9 日、南洋群島からの引き揚げ者 19 人を受け入れる。 3 月 18 日、仲間収容所内に浦添初等学校開校。 4 月 5 日、浦添村役所開庁 (浦添初等学校内)。 6 月 1 日、旧浦添村全 18 字住民が各収容所から仲間キャンプへ集結。 7 月 15 日、西原、前田、沢岨、経塚、安波茶に旧居住地への移動許可が出る。 7 月 19 日、宮城の住民に旧居住地への移動許可が出る。 8 月 5 日、安波茶に青テント校舎の仲西初等学校開校。	3 月、南洋群島からの引き揚げがはじまる。 6 月、米軍物資が無償配給から有償配給になる。 8 月、日本本土からの引き揚げ第 1 船が入港。 12 月末、国内外からの引き揚げ終了。
1947 (昭和 22) 年	2 月 10 日、伊祖、当山、大平の住民に旧居住地への移動許可が出る。 4 月 12 日、仲西、城間、屋富祖、牧港、港川、勢理客、内間の住民に旧居住地への移動許可が出る。 宮崎より疎開児童が帰郷 (10 月 6 日浦添初等学校、11 月 9 日、仲西初等学校)。	
1948 (昭和 23) 年	4 月 5 日、浦添中学校開校。 4 月 16 日、仲西初等学校、安波茶から宮城に移転。中等学校を併置。 6 月 28 日、浦添初等学校西原分校開所。	沖縄人南洋帰還者会が結成される。



年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1949 (昭和 24) 年	2月3日、小湾の住民が宮城に移住開始。 ブラジルとメキシコへ戦後初の移民が渡航。	アルゼンチンへ33人、ペルーへ1人が、沖縄から戦後初の移民として渡航。 3月、日本政府、本土から沖縄への旅券発行開始。
1950 (昭和 25) 年	牧港補給地区建設がはじまる。	郷友会の結成がはじまる。
1951 (昭和 26) 年	一号線道路の拡張工事がはじまる。	9月、日本国との平和条約（サンフランシスコ条約）調印。
1952 (昭和 27) 年	浦添初等学校、浦添小学校と改称。	4月、日本国との平和条約発効。
1953 (昭和 28) 年		沖縄からアルゼンチンへ呼び寄せ移民約100人が渡航。
1954 (昭和 29) 年	4月、屋富祖通り会発足。 6月9日、ボリビア移民壮行会を開催。	
1956 (昭和 31) 年	浦添をふくむ沖縄各地より53世帯254人が石垣島の久宇良に移住。 米軍補給 (QM) 部隊が具志川村天願から城間地域に移動 (牧港補給地区)。	12月、日本の国際連合への加盟が認められる。
1957 (昭和 32) 年		6月、沖縄からボリビアへ最初の計画移民が渡航。 本土集団就職がはじまる。
1958 (昭和 33) 年	4月1日、仲西小学校と仲西中学校を分離。	
1964 (昭和 39) 年	2月、中学校を卒業して日本本土へ就職する生徒へ浦添村から餞別が贈られる (浦添中学校6人、仲西中学校10人)。 4月、神森小学校開校。	
1960 (昭和 35) 年	12月、浦添村人口 24,010人。	
1965 (昭和 40) 年	12月20日、浦添村役所、安波茶に開庁。	
1966 (昭和 41) 年	10月25日、浦添村商工会の結成。	
1969 (昭和 44) 年	浦添村人口 40,000人。	
1970 (昭和 45) 年	7月1日、浦添村から浦添市になる (市制施行)。	
1971 (昭和 46) 年	4月、浦城小学校開校。 10月、大平インターチェンジ完成。	



年 号	浦添関係	沖縄・日本・世界
1972(昭和 47) 年	4 月、神森中学校開校。 浦添市人口 50,000 人。	5 月 15 日、沖縄、日本へ復帰。
1973(昭和 48) 年	4 月、牧港小学校開校。	
1975(昭和 50) 年	伊祖メガネトンネル(国道 330 号線)貫通。	
1976(昭和 51) 年	浦添市人口 60,000 人。 3 月、浦添小学校西原分校廃止。 4 月、当山小学校開校。	
1977(昭和 52) 年	4 月、内間小学校開校。	
1978(昭和 53) 年	沖縄県外地引揚者協会浦添支部結成。	
1980(昭和 55) 年	4 月、港川小学校開校。	
1981(昭和 56) 年	浦添市人口 70,000 人。	
1982(昭和 57) 年	4 月、宮城小学校、沢岬小学校開校。	
1984(昭和 59) 年	4 月、港川中学校開校。	
1985(昭和 60) 年	4 月 23 日、浦添市立図書館開館。 浦添市人口 80,000 人。	
1987(昭和 62) 年	3 月 9 日、浦添市「太陽とみどりにあふれた国際性ゆたかな文化都市」表明。 5 月 10 日、浦添市民体育館落成。	
1988(昭和 63) 年	4 月、前田小学校開校。	
1989(平成 1) 年	浦添工業高等学校で、南洋群島帰還者が招待したミクロネシアの高校生との交流がおこなわれる。	
1990(平成 2) 年	2 月、浦添市美術館開館。 11 月、浦添市人口 90,000 人。	
1992(平成 4) 年	4 月、浦西中学校開校。	
1997(平成 9) 年	7 月、浦添市役所新庁舎落成。	
1998(平成 10) 年	10 月、浦添市人口 100,000 人。	
2007(平成 19) 年	4 月、浦添市てだこホール落成。	
2008(平成 20) 年	11 月、浦添市人口 110,000 人。	
2011(平成 23) 年	9 月、浦添市教育委員会、『浦添市移民史ビジュアル版その 1 海外移民編』を発刊。	
		南洋群島帰還者会、ミクロネシアの高校生など慰霊祭に招待(～2007 年まで)。



参考文献 Bibliography

- 『浦添市史』第1巻 通史編 浦添のあゆみ
浦添市史編集委員会編、浦添市教育委員会、1989年
- 『浦添市史』第5巻 資料編4 戦争体験記録
浦添市史編集委員会編、浦添市教育委員会、1984年
- 『浦添市史』第7巻 資料編6 浦添の戦後
浦添市史編集委員会編、浦添市教育委員会、1987年
- 『写真にみる浦添のあゆみ—明治から昭和62年—』
浦添市史編集委員会編、浦添市教育委員会、1988年
- 「浦添市の人口」（浦添市ホームページ 市政情報 統計資料）
<http://www.city.urasoe.lg.jp/article.php/s20090220183941455>
- 『浦添小学校百周年記念誌』
記念誌発行部編、浦添小学校百周年記念事業期成会、1982年
- 『沖縄県史』各論編5 近代
（財）沖縄県文化振興会史料編集室編、沖縄県教育委員会、2011年
- 『沖縄県史』第7巻各論編6 移民
沖縄県教育委員会編集・発行、1974年
- 『沖縄県史ビジュアル版6 近代① 沖縄と台湾』
（財）沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編、沖縄県教育委員会、2000年
- 『沖縄県史ビジュアル版9 近代② 旧南洋群島と沖縄県人—テニアン—』
（財）沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室編、沖縄県教育委員会、2002年
- 『沖縄県と「満洲」①一般開拓団』
沖縄女性史を考える会、2004年
- 『沖縄女工哀史』、福地曠昭編著
那覇出版社、1985年
- 『岩波講座アジア・太平洋戦争4 帝国の戦争体験』
岩波書店、2006年
- 『外地国勢調査報告 第5輯：台湾総督府国勢調査報告』
文生書院、2000年
- 『記念誌 はるかなるテニアン』
沖縄テニアン会編・発行、2001年
- 『郷友会社会—都市のなかのムラ—』
石原昌家著、ひるぎ社、1986年
- 『久宇良入植40周年記念誌』
久宇良入植40周年記念事業期成会、1996年
- 『広報うらそえ』第1集（1957～1968年）
浦添市役所企画調整室編集・発行、1978年
- 『「国民国家」日本と移民の軌跡—沖縄・フィリピン移民教育史—』
小林茂子著、学文社、2010年
- 『ここに榕樹あり 沖縄県人会兵庫県本部35年史』
沖縄県人会兵庫県本部35年史編集委員会編、沖縄県人会兵庫県本部、1982年
- 『小湾字誌 沖縄戦・米占領下で失われた集落の復元』
法政大学沖縄文化研究所小湾字誌調査委員会著、浦添市小湾字誌編集委員会、1995年
- 『小湾生活誌 小湾字誌〈戦中・戦後編〉小湾新集落の建設とあゆみ』
加藤 久子編集代表、小湾字誌編集委員会、2008年
- 『サイパン会誌』第1～2号
サイパン会誌編集委員編、サイパン会
- 『集団就職の時代—高度成長のいない手たち』



- 加瀬和俊著、青木書店、1997年
- 『青雲開拓団誌 戦時中の沖縄出身満洲開拓民』
前田正敏著・発行、1986年
- 『創立20周年記念事業・緑ヶ丘自治会館落成記念誌』
記念誌編集委員会編、浦添市緑ヶ丘自治会、1993年
- 『台湾支配と日本人』
又吉盛清著、同時代社、1994年
- 『ダバオ開拓記』
古川義三著、古川拓殖、1956年
- 『ダバオ記念誌 平和友好碑・納骨堂建立』
ダバオ引揚60周年記念事業推進実行委員会編、沖縄県ダバオ会
- 『ダバオ邦人開拓史』
蒲原廣二著、日比新聞社、1938年
- 『ドキュメント 八重山開拓移民』
金城朝夫著、あ～まん企画、1988年
- 『なは・女のあしあと 那覇女性史（近代編）』
那覇市総務部女性室那覇女性史編集委員会編、ドメス出版1998年
- 『南洋群島要覧』昭和15年版
南洋廳編・発行、1940年
- 『南洋群島写真帖 南洋廳始政十年記念』
南洋廳編纂・発行、1932年
- 『日本占領下のフィリピン』
池端雪浦編、岩波書店、1996年
- 『比律賓概要と沖縄県人』
村山明德著、ダバオ沖縄県人会、1929年
- 『比律賓群島案内』
大宜味朝徳著、海外研究所、1935年
- 『ボナベ会誌 太平洋の楽園』
ボナベ会誌編集委員会編、沖縄ボナベ会、1990年
- 『牧港字誌』
字誌編集委員会編、浦添市牧港自治会、1995年
- 『満洲開拓史』
満洲開拓史刊行会編集発行、1966年
- 『ミクロネシアを知るための58章』
印東道子編著、明石書店、2005年
- 『八重山開拓記念誌 入植15周年』
八重山地方庁経済課編、琉球政府農林局農政部、1967年
- 『ヤマトウのなかの沖縄』
大阪人権博物館編集発行、2000年
- 『雄飛一大阪の沖縄 大阪沖縄県人会連合会40周年記念誌』
大阪沖縄県人会連合会編集発行、1987年
- 『雄飛一大阪の沖縄 大阪沖縄県人会連合会50周年記念誌』
大阪沖縄県人会連合会50周年記念誌編集委員会編、大阪沖縄県人会連合会、1997年
- 『浦添市における高齢者の属性・外出行動の地域差と都市形成との関係』前津政廣著、琉球大学大学院
人文社会科学研究科地域文化専攻平成16年度修士論文
- 『世界の歴史 大図鑑』
アダム・ハート＝デイヴィス総監修、樺山紘一日本語版総監修、河出書房新社、2009年



写真出所一覧

写真 1	仲間孝蔵 2012 年撮影
写真 2	稲福房子提供
写真 3	『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年
写真 4	又吉盛清提供
写真 5	宮城高進提供
写真 6 ～ 8	『我等が海の生命線 南洋寫真帖』南洋舎
写真 9	『ダバオ開拓三十五周年写真帳』久志助親著、久志真美館、1940 年
写真 10	『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年
写真 11	沖縄県平和祈念資料館所蔵
写真 12 ～ 13	『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年
写真 14	比嘉好子提供
写真 15	宮城高進提供
写真 16 ～ 17	『ダバオ開拓三十五周年写真帳』久志助親著、久志真美館、1940 年
写真 18 ～ 19	『興発記念 砂糖になるまで』アサヒ寫真館撮影、南洋興発株式会社、1939 年
写真 20	平識寿恵子提供
写真 21	『小湾写真集 よみがえる小湾集落』小湾字誌編集委員会、2003 年
写真 22	浦添市立図書館所蔵
写真 23	宮城福正提供
写真 24	仲栄真八重提供
写真 25	新垣安子提供
写真 26 ～ 27	『臺灣紹介 最新寫真集』勝山吉作編、勝山寫真館、1931 年
写真 28	下地智子 2012 年撮影
写真 29 ～ 31	宮城高進提供
写真 32 ～ 33	『カリナン校の思い出』
写真 34	三木健撮影（平成 23 年度調査）
写真 35	『我等が海の生命線 南洋寫真帖』南洋舎
写真 36	仲栄真八重提供
写真 37	『我等が海の生命線 南洋寫真帖』南洋舎
写真 38	昭和館所蔵
写真 39	浦添市立図書館所蔵
写真 40	沖縄県平和祈念資料館所蔵
写真 41	昭和館所蔵
写真 42	『資料が語る戦時下の暮らし』羽島知之編著、麻布プロデュース、2004 年
写真 43	一之瀬俊也提供



写真 44	沖縄県平和祈念資料館所蔵
写真 45	外間長福提供
写真 46	又吉盛清撮影（平成 24 年度調査）
写真 47 ～ 48	三木健撮影（平成 23 年度調査）
写真 49	南洋群島帰還者会提供（いのうえちず 2011 年撮影）
写真 50	南洋群島帰還者会提供（いのうえちず 2009 年撮影）
写真 51 ～ 53	沖縄県公文書館所蔵
写真 54	昭和館所蔵
写真 55	兵庫県歴史博物館（高橋秀古コレクション）所蔵
写真 56 ～ 57	沖縄県公文書館所蔵
写真 58	沖縄市総務課 市史編集担当提供
写真 59	平識寿恵子提供
写真 60 ～ 61	崎原恒新撮影（平成 23 年度調査）
写真 62	仲間孝蔵所蔵
写真 63	沖縄県公文書館所蔵
写真 64 ～ 65	親富祖永吉提供
写真 66	『雄飛 大阪の沖縄 大阪沖縄県人会連合会 50 周年記念誌』大阪沖縄県人会連合会編集発行、1997 年
写真 67 ～ 68	平井芽阿里 2010 年撮影
写真 69	三木健撮影（平成 23 年度調査）
写真 70	石川朋子 2009 年撮影
写真 71	琉球新報社提供
写真 72	石川朋子撮影（平成 23 年度調査）
写真 73	三木健撮影（平成 23 年度調査）
写真 74	又吉盛清撮影
写真 75 ～ 76	浦添市立図書館所蔵
写真 77	沖縄県公文書館所蔵
写真 78 ～ 80	浦添在平安座郷友会提供
写真 81	株式会社琉球新報社提供
写真 82	株式会社沖縄バヤリース提供
写真 83	浦添市立図書館所蔵
写真 84	沖縄県公文書館所蔵
写真 85	浦添市立図書館所蔵
写真 86	浦添市国際交流課 2012 年撮影



執筆者一覧

又吉 盛清（沖縄大学客員教授、浦添市移民史編集委員会副委員長）
久部良和子（（公財）国立劇場おきなわ調査養成課調査資料係長、浦添市移民史編集委員会専門委員）
野入 直美（琉球大学准教授、浦添市移民史編集委員会専門委員）
石川 朋子（沖縄国際大学法政研究所特別研究員、浦添市移民史委員会編集委員）
三木 健（沖縄ニューカレドニア友好協会顧問、浦添市移民史編集委員会専門委員）
仲地 清（名城大学教授、浦添市移民史編集委員会専門委員）
宮内 久光（琉球大学教授、浦添市移民史編集委員会専門委員）
崎浜 靖（沖縄国際大学准教授、浦添市移民史編集委員会専門委員）
井口 学（浦添市移民史編集委員会専門委員）
崎原 恒新（沖縄県文化財保護審議会委員、浦添市移民史編集委員会編集委員）
仲間 孝蔵（NPO法人うらおそい歴史ガイド友の会、浦添市移民史編集委員会編集委員）
大城 道子（浦添市移民史編集委員会専門委員）
桃原 一彦（沖縄国際大学准教授、浦添市移民史編集委員会専門委員）
土屋なおか（浦添市移民史編集委員会専門委員）
下地 安広（浦添市文化部長）

協力：沖縄県公文書館、沖縄県平和祈念資料館、沖縄県福祉保健部福祉・援護課、琉球大学沖縄国際研究所移民研究部門、沖縄市総務課市史編集担当、（株）沖縄バヤリース、（株）琉球新報社、昭和館、兵庫県歴史博物館、麻布プロデュース、大阪沖縄県人会連合会、南洋群島帰還者会、浦添在平安座郷友会、浦添市字小湾郷友会、うらそえ織 結の会、新垣安子、一之瀬俊也、稲福房子、いのうえちず、親富祖永吉、知念和子、仲栄真八重、西原文子、羽島知之、比嘉清、比嘉好子、平井芽阿里、平識寿恵子、外間長福、前津政廣、又吉百合子、松下義丸、松原勝吉、宮城高進、宮城福正、石川友紀、島袋伸三、浦添市移民出稼ぎ移住調査ボランティアサークル
(敬称略)

編集事務局：浦添市立図書館（名護正輝、新城恵理、下地智子、佐久川志麻）

表紙デザイン：赤嶺明乃

図版作成：宮内久光、赤嶺明乃

英語翻訳：株式会社クロスランゲージ

浦添市移民史ビジュアル版 その２ アジア太平洋・国内編

もうひとつのウラシーンチュたちの体験 ― 渡航・戦争・戦後 ―

Visual History of Urasoe Emigration Part 2 : Asia-Pacific and Japan
Another Experience of the Urashinchus - Migration, War, and After the War -

編 集 浦添市立図書館

〒901-2114 浦添市安波茶 2-2-1

TEL : 098-876-4946

<http://library.city.urasoe.lg.jp/>

発 行 浦添市教育委員会

発行日 2013 (平成 25) 年 3 月 29 日

印 刷 (株)尚生堂

〒901-2114 浦添市安波茶 1-6-3

TEL : 098-876-2232 FAX : 098-876-2332

